

1 目標（何を目指すのか。）

【通年】

大阪市と事業者が協働により事業を進めていくことによって、貴重な都市資源である湿地の生物多様性を維持し、市民にとって身近で貴重な環境学習の場を提供すること。

2 使命（どのような役割を担うのか。）

【通年】

- ① 多様な生きものが生息し、特に、様々な種の渡り鳥（長距離を渡るシギ・チドリ類を含む）が利用できる湿地を保全するために、モニタリングと順応的な管理を継続する。
- ② 大阪市内にあって大阪湾を望む景観（「住之江区の都市景観資源」として平成 24 年 12 月 21 日に登録）の中で、湿地を利用する渡り鳥や、それを支える干潟の様々な生きものの観察ができ、渡り鳥や干潟のことを学べる貴重な場を提供すること。

3 平成 28 年度 運営の基本的な考え方（方針）

(1) 渡り鳥を支える豊かな干潟がある野鳥園

多様な生きものが生息し、渡り鳥が多く飛来する豊かな干潟を含む湿地を保全・再生するため、現状を生きものの視点から正確にモニタリング評価し、湿地再生プロジェクトチームでの議論も踏まえ、順応的な管理を実施する。

- ① 落ち葉投入による湿地の環境改善
- ② 市民参加による湿地保全作業の実施

(2) 渡り鳥と人をつなぐ野鳥園

環境学習会を企画実施し、渡り鳥の魅力やそれを支える貴重な自然環境（生態系）としての干潟の大切さを理解、共感してもらう。

- ① 魅力ある環境学習会の実施
- ② 広報活動の充実
- ③ トータルコーディネイターの育成

\*1) 野鳥園内の干潟、塩性湿地、汽水池を含む環境を含めて湿地とする。

4 重点的に取り組む課題 — (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～

<p>将来像 (平成31年 3月末時点)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シギ・チドリ類の種数 <sup>*2)</sup> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春(3～5月)：シギ・チドリ類の渡来種数 22種</li> <li>・秋(8～10月)：シギ・チドリ類の渡来種数 24種</li> </ul>                     干潟の順応的管理により、シギ・チドリ類の中継地としての役割を将来にわたって果たしていく。                 </li> <li>2. シギ・チドリ類以外で湿地を利用する野鳥の種数：60種 湿地で生活するシギ・チドリ類以外のカモ類、サギ類、その他の野鳥の生息環境を保全する。</li> <li>3. 有機物が適度に堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が生息している底質の状況。</li> </ol> <p><small>*2) シギ・チドリ類の個体数は、東アジアの繁殖地・中継地・越冬地での減少が著しいため、個体数ではなく、種数の目標設定のみとした。</small></p>
<p>現状 (課題設定の 根拠となる現状)</p>	<p>日本国内の他の干潟と同様に、野鳥園に渡来するシギ・チドリ類の個体数は年々減少している。しかし、野鳥園は、湿地の保全・再生と順応的管理を開園(1983年9月)以後から継続して実施しており、生息環境が減少または悪化するシギ・チドリ類の大切な中継地となっている。</p>
<p>要因分析 (目指すべき将来像と 現状に差が生じる要因)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 繁殖地・中継地・越冬地での個体数減少や温暖化による生息環境の変化</li> <li>2. 野鳥園の干潟の現状 <sup>*3)</sup> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 干潟表層の有機物堆積層の流出</li> <li>2) カキ礁の拡大による干潟面積の減少(北池)</li> <li>3) 干潟の一部の砂質化</li> <li>4) 干潟表層のバイオフィルムの減少</li> <li>5) 地盤沈下による浅場面積の縮小と深場の拡大(地盤は年間に平均1センチ低下)など</li> </ol> </li> <li>3. 干潟周囲林の高木化と高木への猛禽類の定着によって、湿地を利用する鳥類が昼間にじっくりと採食できない状況</li> </ol> <p><small>*3) 5項目の干潟環境の変化はあるが、湿地の生きものの現状は、貝類69種を含めて203種の多様な海岸生物(絶滅危惧種は34種を含む)がバランスよく生息している。しかし、開園以来、上記1)～5)のように干潟の状況の変化が発生しており、多種多様な干潟の生きものがバランスよく生息している現環境と、渡り鳥の餌となる生き物の生息環境を保全するための対策をとる必要がある。</small></p>
<p>課題 (上記要因を解消する ために必要なこと)</p>	<p>有機物が堆積しやすく、シギ・チドリ類が好む多様な餌生物が多く生息し、安心して採食でき、満潮時に休み場がある環境づくり。</p>
<p>手法</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 南池水門の撤去：南池から西池への流れをよくし、南池干出面積を大きくする。</li> <li>2. 有機物を堆積しやすくすることによって小型シギ・チドリ類が好む餌場づくりをおこなう。</li> <li>3. 満潮時の鳥類の休み場づくりをする。</li> <li>4. 北池の浅場の砂質化を防ぐ長期的方策の検討(カキ礁拡大防止も含めて)。</li> <li>5. 干潟周囲の高木(主にクロマツ)の剪定。</li> <li>6. 干潟内への落ち葉投入による環境改善。</li> <li>7. 塩分の測定。</li> </ol>

評価		中間評価 (評価日：平成 28 年 12 月 20 日)	年度評価 (評価日)
	年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項	1. シギ・チドリ類の渡来種数： 春（4～5月） 24種類 秋（8～10月） 27種類 2. 南池水門の撤去： 実施（8月3日） 3. 塩分の測定： 大阪市立大学の協力のもと干潟現況調査や底生生物調査に 合わせて2回実施。（7月20日、8月17日） 4. 干潟への落ち葉投入による環境改善： 北池で4m×4mの3つの実験区を設け、腐葉土化させた落ち 葉投入区域、腐葉土化させていない落ち葉投入区域、何も施 さない区域とした。2週間ごとの簡易調査、1か月ごとの定 期調査で水質調査、底質調査、底質分析、ベントス調査を行 っており、3月までモニタリングを継続予定である。 5. 干潟周辺の高木（クロマツ等）の伐採による猛禽類対策： 南観察所付近の高木（クロマツ等）を11月伐採完了（約30 本）。 6. 立入禁止区域への侵入者対策として、業者による巡回警備 に加えて、職員による巡回を適宜実施し、新たに侵入防止 柵の設置等を行った。	
	自己評価	課題となっていた項目の多くを達成しつつある。 1. シギ・チドリの渡来種数については、春も秋も目標を達成 した。 2. 南池水門の撤去が完了し、南池からの海水の排出がスムー ズになり、干出面積の増加につながった。 3. 塩分測定を行っており、池による塩分濃度の違いが明らか となった。 4. 高木を伐採したことによる猛禽類の定着率の変化について は経過観察中である。	
	課題と改善策	1. 西池と北池から海水とともに土砂が流出し、西池導水管付 近に堆積しやすくなり、導水管から出入りする海水の流れ を妨げているため、除去作業を検討している。南池水門撤 去の効果をより高める狙いも持つ。 2. 北池のカキ礁が拡大し、鳥類のえさ場を狭めているため、 南池に一部移動し鳥類の休み場として活用することを検討 している。（南池は鳥類の休み場が不足。） 3. 北池の浅場の砂質化の抑制については、干潟内への落ち葉 投入による変化を観察し、効果を期待したい。	
委員評価			

重点的に取り組む課題 - (1) 湿地の保全・再生～渡り鳥を支える豊かな湿地がある野鳥園～

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成28年度目標(当初)	中間実績	平成28年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
鳥類調査	鳥類調査実施回数	26回	23回	26回	18回	—			
	大阪府一斉ガンカモ調査への情報提供	実施	実施	目標達成・継続実施	1月実施予定	—			
	環境省(モニタリングサイト1000)への情報提供	実施	実施	目標達成・継続実施	実施(6月、10月)	—			
湿地再生PT	湿地再生PTの開催	2回	2回	目標達成・継続実施	3月実施予定	—			
	湿地再生PTで提示する資料整理(調査)	毎年データ更新	実施	目標達成・継続実施	3月実施予定	—			
		—	—	落ち葉投入について 研究結果を報告	3月実施予定	—			
底生生物調査	底生生物調査	2回	2回	目標達成・継続実施	1回	—			
	塩分の測定(客観的なデータの収集)	実施	—	実施	実施(7月、8月)	—			
漂着ゴミ回収と除去作業	実施回数	3回	2回	3回	2回	—			
	ボランティア参加人数	400人	230人	300人	350人	—			
湿地の手入れ	ヨシ刈り、休み場づくり等の実施回数	5回	5回	目標達成・継続実施	5回	—			
	上記手入れと環境学習との連動	5回	1回	2回	3月実施予定 (カキ礁移動)	—			
	南池水門の撤去	実施	—	実施	実施(8月)	—			

4 重点的に取り組む課題 – (2) 魅力ある環境学習会の実施～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

計画	将来像 (平成31年 3月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な体験型環境学習ができる場として、季節に応じて魅力あるプログラムを企画実施する。</li> <li>2. 環境学習および野鳥ガイドは、土曜、日曜または祝日に実施する。</li> </ol>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境学習の内容が固定化している。</li> <li>2. 年間の環境学習会の開催が少ない。</li> </ol>
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境学習を企画実施できる知識のある人材が固定化している。</li> <li>2. 管理体制の変更により、環境学習に関して、対応可能な日数と人材登用数が限られ、実施回数が限られている。</li> </ol>
	課題 (上記要因を解消するため に必要なこと)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境学習を開催できる人材の幅広い育成</li> <li>2. 必要経費の確保</li> </ol>
	手法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境学習の手法の改善について検討する。</li> <li>2. 現在の野鳥ガイドのフォローアップ研修を行い、種々のガイドや環境学習会に対応できる人材を育成する。</li> <li>3. 企業の協力のもと、企業や市民双方にとって有益で魅力あるイベントを検討する。</li> <li>4. 地元住之江区内の学校や市民に環境学習の場として野鳥園を利用してもらうように働きかけを行っていく。</li> </ol>

評価		中間評価 (評価日：平成 28 年 12 月 20 日)	年度評価
	年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項	1. 昨年誕生した 21 名の野鳥ガイドについては、実際にガイドを行うことに加え、フォローアップとして環境学習会、ヨシ刈り、漂着ゴミ収集活動等にも参加することで総合的に経験を積んでいる。 2. 広報活動の充実により、環境学習会には 8 月のアカテガニ観察会までで約 30 名の初参加者があった。 3. 環境学習会の定員充足率は平均で 56.3%である。	
	自己評価	1. 一人で解説できる野鳥ガイドの数については、昨年度と同様となっている。休日のガイドは基本的には 1 日 2 名体制で行っているが、来園者が多い時期などは 3 名体制で行えるようにガイドの増員を図りたい。 2. 環境学習会の初参加者数は、現時点で目標を達成している。環境学習会の定員充足率は、現時点で昨年度の実績を上回るものの、目標値は達成していない。 3. ヨコエビ定量調査については、築港中学校との協議により次年度秋に実施することとなった。また、次年度は体験学習として湿地の手入れ作業の実施に向けても同中学校と調整中である。	
	課題と改善策	1. 広報手法だけではなく環境学習会の内容や広報期間、開催時期についても考慮し、定員充足率の目標の達成を目指す。 2. 地元の住之江区内の学校に参画を呼び掛けるなど、環境学習の利用拡大に向けた取り組みを行う。 3. 企業との連携については、他都市の類似施設の取り組みも参考にしつつ引き続き検討を行う。	
委員評価			

重点的に取り組む課題 - (2) 魅力ある環境学習会の実施～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成28年度目標(当初)	中間実績	平成28年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
【定例】野鳥ガイド	実施回数	40回	36回	36回	27回	—			
	ガイド制服作成	実施	実施	目標達成・継続実施	実施	—			
【定例】野鳥の会・定例探鳥会	実施回数	12回	12回	目標達成・継続実施	8回	—			
野鳥ガイド	登録人数	40人	21人	21人(昨年度確保した野鳥ガイドのフォローアップ)	21人	—			
	一人で解説できる野鳥ガイドの数	12人 目標見直し ⇒25人	15人	21人(昨年度確保した野鳥ガイドのフォローアップ)	15人	—			
環境学習会	単発観察会実施回数	6回	5回	6回	7回	—			
	環境学習会初参加者数	30人	51人	目標達成・継続実施	30人	—			
	各環境学習会の定員充足率	平均100%	平均50%	平均80%	平均56.3%	—			
企業との連携	企業からの協力を得たイベントの開催	実施	未実施	検討	検討	—			
教員対象の環境学習プログラム	環境学習プログラムのカリキュラムを整備	教員対象プログラム(2回)	児童・生徒対象プログラム実施(1回)	児童・生徒対象プログラム実施(1回)	来年度実施予定	—			
地元との連携	住之江区内の学校が環境学習会に参加	実施	—	参加呼びかけ		—			

4 重点的に取り組む課題 ー (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計 画	将来像 (平成 31 年 3 月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野鳥園で開催している環境学習会について市民に広く知ってもらおう。</li> <li>2. さまざまな環境学習の活用のあることを知ってもらう。</li> <li>3. 野鳥園を利用する渡り鳥の生態や魅力を市民が知ることで、自然環境への理解を深めてもらう。</li> </ol>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 野鳥園で開催している環境学習会について認知度が低い。</li> <li>2. 府下では年間で最も多くの野鳥 (150 種) が見られること、特に湿地では年間 90 種近くの野鳥が利用していることに対する認知度が低い。</li> </ol> <p>※ 開園以後に野鳥園で記録された野鳥の種類: 248 種、その中で湿地を利用する種: 140 種 (シギ・チドリ類: 53 種、カモ類: 20 種、サギ類: 12 種、それ以外: 55 種) (平成 28 年度 6 月現在)</p>
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	市民への広報不足。
	課題 (上記要因を解消するため に必要なこと)	さまざまな媒体を利用しながら、広報を行う。
	手法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効果的な媒体を活用し、幅広い層の市民へ野鳥園で実施している環境学習会について情報発信を行う。</li> <li>2. 野鳥園に足を運んできた人に、親しみやすい掲示物や案内板等を製作する。</li> <li>3. アンケートを実施し、野鳥園に対する利用者の評価や効果的な広報媒体を分析する。</li> <li>4. 野鳥園での干潟・湿地環境保全活動、環境学習会活動について参加・支援する方を募集する「野鳥園サポーター制度」(仮称)の導入について検討する。大阪港開港 150 周年事業へのイベント参画について検討する。</li> </ol>

評価		中間評価 (評価日：平成 28 年 12 月 20 日)	年度評価
	年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項	1. 環境学習会の情報発信は大阪市のホームページも活用した。 2. 新たに、タウン紙や情報紙に環境学習会の案内や施設利用案内を掲載した。 3. 野鳥の飛来状況について、野鳥園ホームページやブログでの情報発信や展望棟での掲示を行った。 4. 野鳥園サポーター制度（仮称）の導入について、他都市の類似施設の取り組み調査等を行い、検討を行っている。	
	自己評価	1. タウン紙や情報紙等の紙の広報媒体を通じ、インターネットを頻繁に利用しない方にも野鳥園の情報をアピールできるようにした。 2. 野鳥の飛来状況を発信することにより、利用者の観察の手助けとなるように努めた。 3. 広報媒体の拡大を図っているものの、環境学習会の定員充足率は目標値を達成していない。1月のカモの観察会は地元（住之江区）の区広報紙を活用する予定である。	
	課題と改善策	1. 区広報紙の積極的な活用も検討しながら、定員充足率の増加を目指す。 2. 野鳥園サポーター制度（仮称）については、一般来園者がさらに野鳥園に関心を持ってもらえることを目指すとともに、無理なく運用できる制度となるよう、他都市の類似施設における取り組みも参考にしつつ、検討していく。 3. 港湾局内での調整の結果、大阪港開港 150 周年事業のイベント参画については見送ることとなったが、開園 35 周年に合わせた取り組みについて今後引き続き検討する。	
委員評価			

重点的に取り組む課題 - (3) 広報活動の充実～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状 (前年度までの実績)	平成 28 年度目標 (当初)	中間実績	平成 28 年度目標見直し	年度実績	年度目標比較 増△減	最終目標比較 増△減
ホームページの充実	野鳥ガイド案内	実施	実施	目標達成・継続実施	実施	—			
	各イベント案内	実施	実施	目標達成・継続実施	実施	—			
さまざまな広報媒体の活用	大阪市 HP	2 回	1 回	2 回	2 回	—			
	区役所にイベントチラシ配備	実施	実施	目標達成・継続実施	実施	—			
	タウン紙・区広報紙	1 回	未実施	1 回	1 回	—			
	ブログによる情報発信	実施	実施	実施	実施	—			
展望塔内の展示スペースの活用	更新回数	4 回	2 回	3 回	3 回	—			
	野鳥写真の掲示	2 回	3 回	3 回	3 回	—			
	掲示板にイベントコーナー、お知らせコーナーの開設	実施	実施	目標達成・継続実施	実施	—			
アンケートなどによる利用者ニーズの把握	常設アンケート	通年で実施	8～9 月にかけて実施	目標達成・継続実施	通年で 1 月以降実施予定	—			
	野鳥ガイド時のアンケート	通年で実施	通年で聞き取りにより実施	目標達成・継続実施	通年で聞き取りにより実施	—			
サポーター制度	野鳥園サポーター制度(仮称)の導入	—	—	検討	検討	—			
大阪港開港 150 周年事業	大阪港開港 150 周年事業へのイベント参画	—	—	検討	検討 (開園 35 周年にあわせて他の PR 方法を検討)	—			

4 重点的に取り組む課題 - (4) トータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～		
計画	将来像 (平成31年 3月末時点)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門的知識を有する人材が、各事業を包括して計画、管理、指示することによって、事業全体を通して野鳥園の機能と役割が発揮でき、湿地の保全ができるようにする。</li> <li>2. 環境学習会に参加することによって、シギ・チドリ類を含む野鳥、湿地、生物多様性などについて実際に見て感じて理解できるようにトータルコーディネートする。</li> </ol>
	現状 (課題設定の 根拠となる現状)	トータルコーディネイターは増員したものの、湿地環境の保全に関して市民参加できるプログラムが少ない。
	要因分析 (目指すべき将来像と現状 に差が生じる要因)	増員したトータルコーディネイターが野鳥園事業での経験が浅いこと
	課題 (上記要因を解消するた めに必要なこと)	トータルコーディネイターのスキルアップにつとめ、各事業の充実を図る。
	手法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. トータルコーディネイターの育成、教育を行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) トータルコーディネイターが他湿地管理団体と交流することによって、視野を広げる。</li> <li>2) 湿地の環境保全に関して市民参加できるプログラムを実施する。</li> <li>3) トータルコーディネイターのうち一名は広報・啓発分野を専門に担当し、重点的に取り組む。</li> </ol> </li> </ol>

評価		中間評価 (評価日：平成 28 年 12 月 20 日)	年度評価
	年度目標の 達成状況	<input type="checkbox"/> 達成見込 <input type="checkbox"/> 概ね達成見込 <input type="checkbox"/> 未達成見込	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 概ね達成 <input type="checkbox"/> 未達成
	取り組み事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年度加わった若手のコーディネイターとともに、環境調査や湿地の手入れに関する設計や企画を行い、スキルアップにつとめた。</li> <li>2. トータルコーディネイターのうち一名は広報・啓発分野を専門に担当することとし広報・啓発分野の強化を図った。また、来年度新たにパンフレットや展望塔に設置する下敷きの作成も検討している。</li> <li>3. トータルコーディネイターの企画により、新たな試みとして、事業を担当する大阪市職員以外も広く野鳥園に関する知識を深めることを目的とし、大阪市と NPO 法人南港ウェットランドグループとで勉強会を開催した。</li> </ol>	
	自己評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他湿地管理団体との交流を行う際、若手コーディネイターも参加することにより、視野を広げ、事業の運営に生かすようにしている。</li> <li>2. パンフレットに関しては、野鳥園の干潟や生きものの最新の状況を解説したものとし、環境学習会などでも役立てられるような内容とする。下敷きは季節ごとに作成し、野鳥園に飛来する鳥類を紹介するものとする。</li> <li>3. 勉強会には緑地の維持管理作業を行う大阪市職員あわせて約 20 名が参加し、野鳥園の歩み、干潟・湿地や植栽部分の状況、それぞれの環境を野鳥がどう利用しているかなどについて、知識の深化を図ることができた。</li> </ol>	
	課題と改善策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. トータルコーディネイターが、市民が実際に体験し、学習できる環境保全プログラムを企画する。 (具体的には、市民ボランティアを募り、鳥類のえさ場を狭めている北池のカキ礁を南池に一部移動し、鳥類の休み場として活用するプログラムの実施を検討する。3 頁参照。)</li> <li>2. 観察場所である展望塔と干潟の間に距離があり、渡り鳥の観察にあたってはその生態をじっくりと観察しにくいという課題があるため、トータルコーディネイターにより新たな環境学習プログラムを検討する。</li> </ol>	
委員評価			

重点的に取り組む課題 - (4) トータルコーディネイターの育成～渡り鳥と人をつなぐ野鳥園～ 点検表

具体的取組	計画				振り返り				
	点検項目	最終目標	現状(前年度までの実績)	平成28年度目標(当初)	中間実績	平成28年度目標見直し	年度実績	年度目標比較増△減	最終目標比較増△減
人材育成	トータルコーディネイターの人材育成	5人	4人	4人 (昨年度確保した人材のスキルアップ)	4人	—			
	トータルコーディネイターのうち一名は広報・啓発分野を専門に担当	実施	—	実施	実施	—			
他干潟保全団体との交流	環境学習や干潟・湿地の管理手法に関する情報交換	2回	3回	<b>目標達成・継続実施</b>	2回	—			
市民が参加できる環境保全体験	市民が参加できる環境保全体験を組み込んだプログラムの実施	2回	1回	2回	3月実施予定 (市民ボランティアによるカキ礁移動)	—			